

子供たちに求められる資質・能力（令和答申抜粋）



次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力としては、**文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力**などが挙げられた。



また、**豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神**の育成等を図るとともに、子供の頃から各教育段階に応じて**体力の向上、健康の確保**を図ることなどは、どのような時代であっても変わらず重要である。



国際的な動向をみると、（略）自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなど、**地域や地球規模の諸課題について、子供一人一人が自らの課題として考え、持続可能な社会づくりにつなげていく力を育むことが求められている。**



また、経済協力開発機構（OECD）では子供たちが2030年以降も活躍するために必要な資質・能力について検討を行い、令和元（2019）年5月に“Learning Compass 2030”を発表しているが、この中で子供たちが**ウェルビーイング（Well-being）を実現していくために自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を身に付けることの重要性が指摘されている。**

3

学校教育の意義（令和答申抜粋）



日本の学校教育はこれまで、学習機会と学力を保障するという役割のみならず、**全人的な発達・成長を保障する役割**や、人と安全・安心につながる**居場所・セーフティネット**として**身体的、精神的な健康を保障するという福祉的な役割**も担っていることが再認識された。

特に、全人格的な発達・成長の保障、居場所・セーフティネットとしての福祉的な役割は、**日本型学校教育の強み**であることに留意する必要がある。



日本型学校教育が、世界に誇るべき成果を挙げてくることができたのは、子供たちの学びに対する意欲や関心、学習習慣等によるものだけでなく、**子供のためであればと頑張る教師の献身的な努力**によるものである。

教育は人なりと言われるように、我が国の将来を担う子供たちの教育は教師にかかっている。しかしながら、学校の役割が過度に拡大していくとともに、直面する様々な課題に対応するため、教師は教育に携わる喜びを持ちつつも疲弊しており、**国において抜本的な対応を行うことなく日本型学校教育を維持していくことは困難**であると言わざるを得ない。



学校は、**すべての子供たちが安心して楽しく通える魅力ある環境であることや、これまで以上に福祉的な役割や子供たちの居場所としての機能を担うことが求められている。**家庭の社会的・経済的背景や、障害の状態や特性及び心身の発達の段階、学習や生活の基盤となる日本語の能力、一人一人のキャリア形成など、**子供の発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、様々な課題を乗り越え、一人一人の可能性を伸ばしていくことが課題**となっている。

4

学校教育の意義（令和答申抜粋）



学校の臨時休業中、子供たちは、学校や教師からの指示・発信がないと、「何をして良いか分からず」学びを止めてしまうという実態が見られたことから、**これまでの学校教育では、自立した学習者を十分育てられていなかったのではないかという指摘もある。**



学習指導要領ではこれまで、「個人差に留意して指導し、それぞれの児童（生徒）の個性や能力をできるだけ伸ばすようにすること」（昭和33（1958）年学習指導要領）、「個性を生かす教育の充実」（平成元（1989）年学習指導要領等）等の規定がなされてきた。

その一方で、**学校では「みんなで同じことを、同じように」を過度に要求する面が見られ、学校生活においても「同調圧力」を感じる子供が増えていったという指摘もある。**社会の多様化が進み、画一的・同調主義的な学校文化が顕在化しやすくなった面もあるが、このことが結果としていじめなどの問題や生きづらさをもたらし、非合理的な精神論や努力主義、詰め込み教育等との間で負の循環を生じかねないということや、保護者や教師も同調圧力の下にあるという指摘もある。



学校に十分な人的配置を実現し、1人1台端末や先端技術を活用しつつ、（略）個別最適な学びを実現しながら、学校の多様性と包摂性を高めることが必要である。その際、**現状の学校教育における個の確立と異質な他者との対話を促すことに弱さがあるとの指摘も踏まえ、一人一人の内的なニーズや自発性に応じた多様化を軸にした学校文化となり、子供たちの個性が生きるよう、個別化と協働化を適切に組み合わせた学習を実施していくべきである。**

18歳の意識調査

自身と社会の関わりについて、どう思うか

全体的に低いものの、社会貢献意欲は比較的高い

- ✓ 自分は大人だと思う
- ✓ 自分は責任がある社会の一員だと思う
- ✓ 自分の行動で、国や社会を変えられると思う
- ✓ 国や社会に役立つことをしたいと思う
- ✓ 慈善活動のために寄付をしたい
- ✓ ボランティア活動に参加したい

6位
/6ヶ国中

Q 以下の項目に同意しますか。（各国n=1000）※「(否)」回答率を掲載

	自分は大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	自分の行動で、国や社会を変えられると思う	国や社会に役立つことをしたいと思う	慈善活動のために寄付をしたいと思う	ボランティア活動に参加したいと思う
日本	27.3 6位	46.4 6位	26.9 6位	61.7 6位	36.2 6位	49.7 6位
アメリカ	85.7	77.1	58.5	73.0	66.7	70.4
イギリス	85.9 1位	79.9	56.6	71.2	69.5	64.2
中国	71.0	77.1	70.9	82.1	78.9	85.3 1位
韓国	86.7	85.7	81.5	75.2	82.4	70.7
インド	83.7	82.8 1位	78.9 1位	92.6 1位	83.7 1位	78.1

自国で暮らす大人にとってどの程度重要だと思うか？

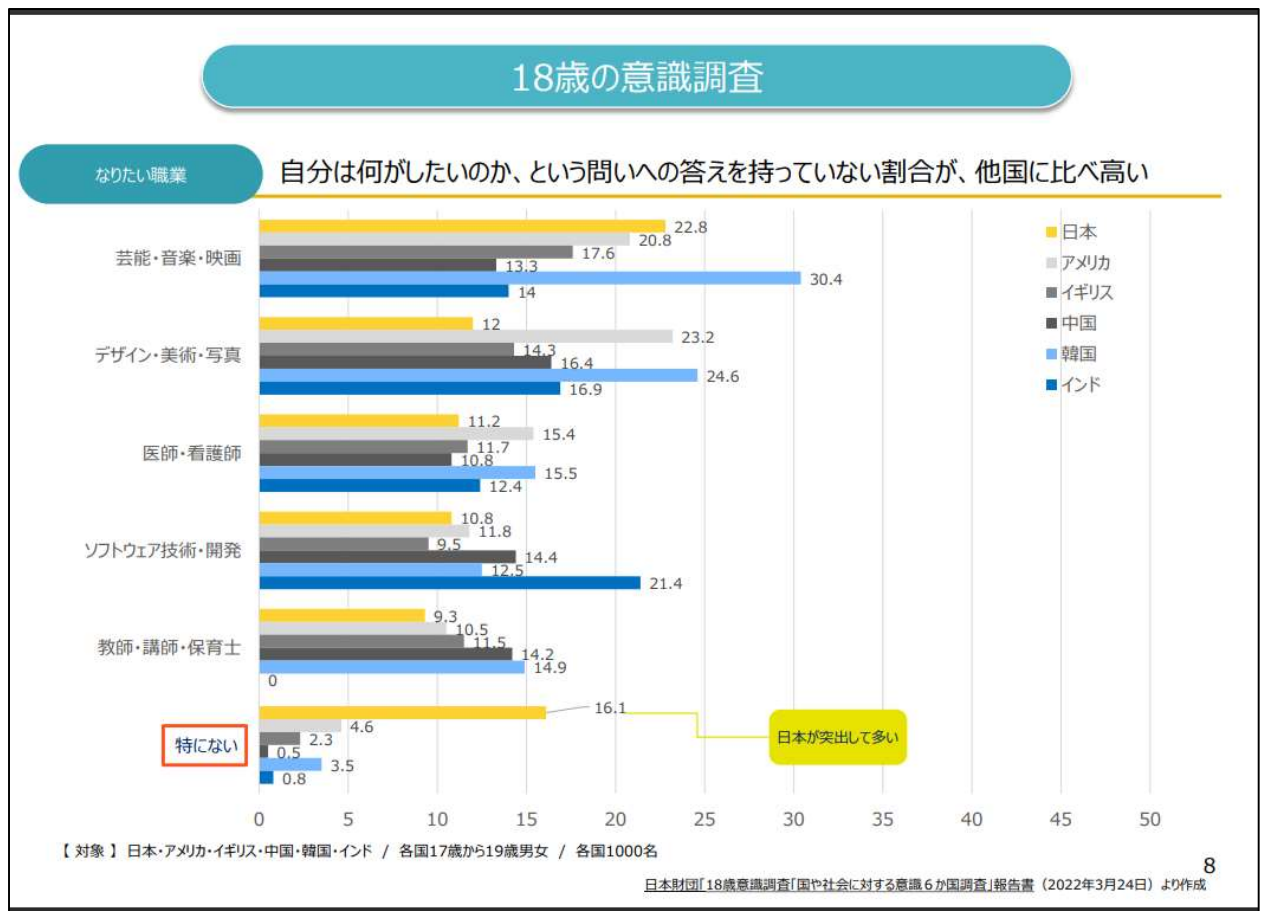
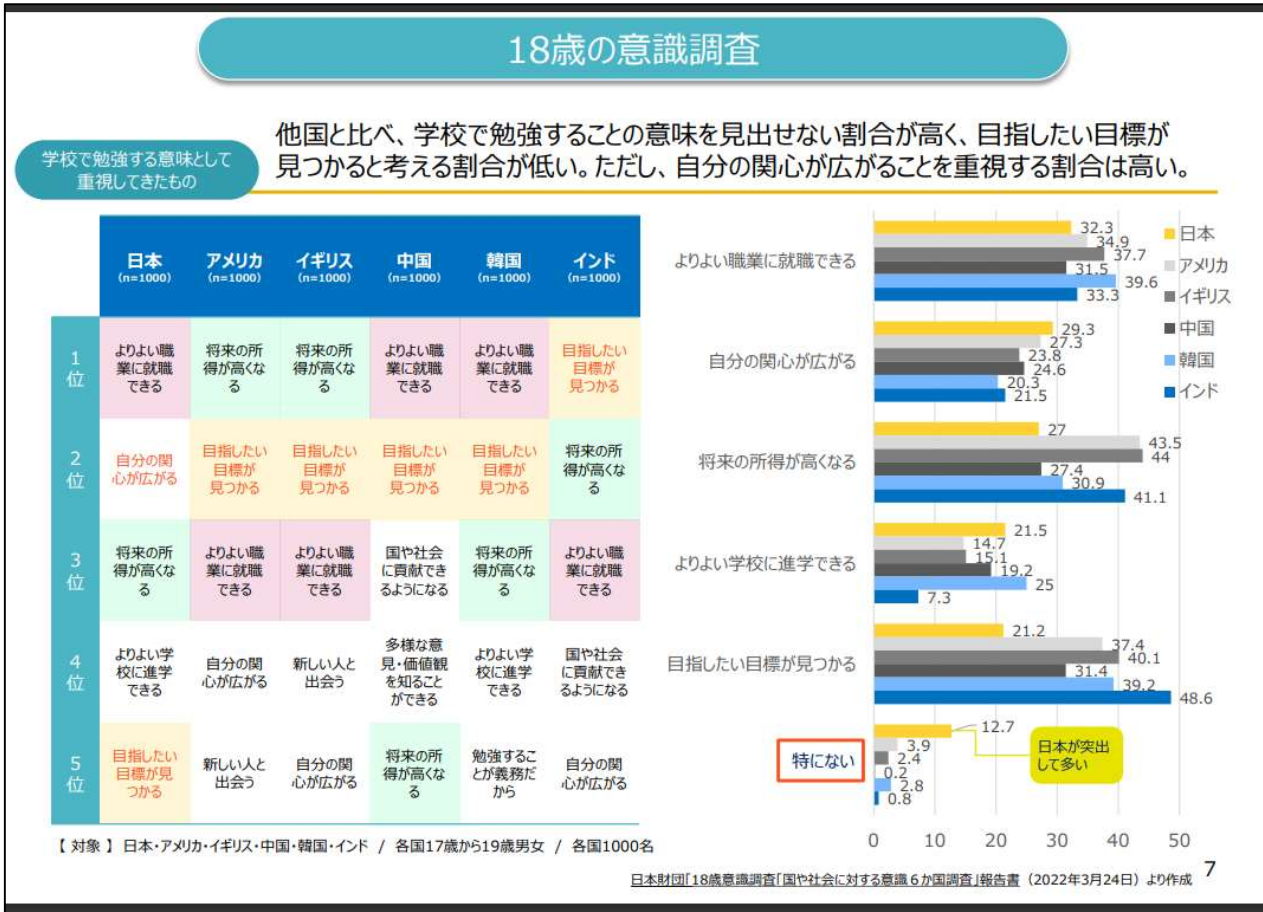
個性を発揮すること、リーダーシップを発揮することが社会では評価されないのではないか、という認識を持っている可能性

- 社会の伝統やルールを順守する 3位
- 前例にとらわれず、新しく創造的である 4位
- 他人との衝突を避け、調和を重視する 4位
- 他人との違いを恐れず、個性を発揮する 6位
- リーダーシップを発揮して他者を率いる 5位
- リーダーに従い、リーダーを適切に支援する 4位
- 地域の間人間関係やコミュニティを大切にす 4位
- 地域や国境を越えてグローバルに能力を発揮する 3位
- 人種、性別、性的指向、障害などの多様性を理解し少数者を尊重する 3位

Q 以下の項目は、自国で暮らす大人にとって、どの程度重要だと思いますか。（各国n=1000）※各回答ごとに以下の値も示す。平均値を黒字、10%・重要で(0%)・(20%)・(40%)・(60%)・(80%)・(100%)・重要を赤字

	社会の伝統やルールを順守する	前例にとらわれず、新しく創造的である	他人との衝突を避け、調和を重視する	他人との違いを恐れず、個性を発揮する	リーダーシップを発揮して他者を率いる	リーダーに従い、リーダーを適切に支援する	地域の間人間関係やコミュニティを大切にす	地域や国境を越えてグローバルに能力を発揮する	人種、性別、性的指向、障害などの多様性を理解し少数者を尊重する
日本	69.2 3位	58.3 4位	51.1 4位	59.4 6位	56.8 5位	58.4 4位	60.0 4位	59.9 3位	57.2 3位
アメリカ	89.1	82.7	58.1	83.8	86.8	80.1	86.0	86.0	86.0
イギリス	87.8	86.5	57.2	80.0	81.5	86.5	87.1	83.0	85.2
中国	71.0 1位	79.2 1位	78.6 1位	68.1 1位	68.1 1位	66.7 1位	69.6	66.1 1位	72.2 1位
韓国	87.6	88.8	81.4	81.3	89.5	81.7	99.7	88.8	84.8
インド	83.2	88.7	88.8	87.3	82.9	82.9	89.7 1位	83.1	71.2

【対象】日本・アメリカ・イギリス・中国・韓国・インド / 各国17歳から19歳男女 / 各国1000名 日本財団「18歳意識調査(国や社会に対する意識6ヶ国調査)報告書(2022年3月24日)より作成



学校教育に対する子供たちの様々な意見



今後、教室、クラスの在り方やスタイルは多様化していくべきだと思います。
オンラインもオフラインも違う意味で得るものがありました。

学びのスタイルを自分自身でデザインしていくのが当たり前の、ある意味オールオッカーなクラスができてほしいです!!



自由を求められたり、自分の個性を生かしたり、他の人と違うことをやったりすることを強制させられるのは苦しいと思う人はいないかなと思います。
自分の個性を見つけ出してそれを活かすために何か実践しないといけないという社会になるのは辛いんじゃないかなと思います。

特に精神的に不安定である中高生という時期にさらに不安や葛藤、周りと比べたときの劣等感に悩まされるようなこういった状況で生活するのは危険じゃないかなと思います。



被教育者目線としては対面の授業の場を貴重な機会として大事にしてほしいと思った。
オンライン授業の経験を通し、やはり対面で授業を受けて議論し合う機会は必要と感じた。
オンライン上では議論することはできても、何か熱の入った議論がしにくいと思う。
だからこそ、デジタルの力を適材適所利用しつつも、対面の機会を活用するシステムの構築をお願いしたい。



一つの教室にクラス全員が集まって授業を受ける意味は、今コロナ禍においても言えることだと思います。
(略)
色々な人の色々な意見、個性、特徴、顔色、すべてを肌で感じる環境だからこそ、大変なこともあるけど集団としての成長や得るもの大きさはやはり何にも変えられないと去年感じました。

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局「中間まとめに対するアンケート結果について（概要）」（令和4年2月9日）より作成

9

学校教育に対する子供たちの様々な意見



授業を構成するのは生徒であり、生徒が授業を進めていくという感覚を持たせることが必要だ。
(略)

生徒自身が授業を進めていくことによって、教師が気づかなかったことも生まれるだろうし、多様性を担保しながら互いに能力を伸ばし合うことが可能となる。この中で、教師は授業が過度に関係のないトピックに集中しないかを監視し、時には方向性を修正するサポーターとしての役割を果たすべきである。



「好き」や「夢中」を見つけるためには、様々なものに本気で触れてみるのが大切だと思います。
(略)

学校などの取り組みで様々なものに触れる機会があってもサラッと触れる程度では何の意味もなく、「何か思っていたのと違った…」で終わります。



「個別最適な学び」にとって重要なのは「自分で自分の学びの目的やペースを自分で試行錯誤しながら見定めること」とありますが、実際には生徒がこのような試行錯誤を行っていくことは難しいと思います。
自分は高校生ですが、そのような試行錯誤を急にやってくれと言われても何も思いつかないし、他にもこのような状況の高校生は多数いると思います。従って、大人たちが生徒たちに試行錯誤の方法を教える機会が必要だと考えます。



僕はもう小学校4年生です。
今の学校で皆一斉に同じ事を同じようにする事を求められるのが苦痛です。
一刻も早く変わってほしいです。
いきなり全部変わるのは無理でも、ほんの少しでも新しい要素が入れば毎日をもっと楽しくなると思っています。

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局「中間まとめに対するアンケート結果について（概要）」（令和4年2月9日）より作成

10